

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第9回）「キャリア教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年4月23日(金) 午後3時00分～午後4時32分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1902号会議室	
出席者	委員	廣嶋憲一郎、石井友行、小野雅保、世古徳浩、安井実、望月徳生、飯塚剛、野田恵威子、高橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	鈴木裕行 指導主事

1 挨拶

事務局

第1回目ということで、どうぞよろしくお願ひいたします。本年度、芝田に代わりまして、キャリア教育の部会を担当させていただきます鈴木と申します。

アドバイザー

アドバイザーの廣嶋です。教育委員会から依頼があり、3月に大泉学園桜小・中学校の地域の保護者等を対象に「小中一貫教育の到達点とこれから」ということで1時間ばかり話をした。

それぞれの資料作成委員会で今どんなことをやっているのか。それが学校づくりにどうつながっていくのか。私も中間報告書を読んで4部会の説明をさせていただいた。

今年度のまとめは、10月がゴールだということであまりのんびりしてられないが、優秀な先生方がお集まりの部会なので安心している。

2 協議

部長

先ほど吉村教育指導課長からお話があったが、どういう子供たちを育てたいのか、練馬の子供たちをどうするのか。それは、資料作成委員会で議論した内容を小中一貫教育校推進委員会でどう評価して、その課題はこうで、カリキュラムをつくるに当たって、キャリア教育部会としてはこういう要望があるという中間報告書の思いがないとなかなか難しいのではないかと。

ただ今日のところは、先ほど五十嵐統括指導主事からお話があったように、最低限次回の日程を決めればよいということなので、廣嶋先生の日程を第一優先に考えつつ、鈴木先生に決めていただきたい。

事務局

最初に日程を決めて本日の目標を果たしたいと思う。先ほどの年間の予定を参考にしながら、10月末までに最大9回は部会を開いていくことになる。

<以下日程調整・確認>

- ・ 第二回部会 5月6日(木) 午後3時
- ・ 第三回部会 6月8日(火)

- ・ 第四回部会 7月1日(木)
- ・ 第五回部会 7月13日(火)
- ・ 第六回部会 7月28日(水) 午前10時 (大泉学園桜中学校)
- ・ 第七回部会 9月6日(月)
- ・ 第八回部会 10月5日(火)
- ・ 第九回部会 10月19日(火)

事務局

では時間が許される範囲で、キャリア部会の今年度の進め方と昨年度を踏まえて内容について意見交換をして本日を終わりにしたいと思う。

部長

先ほど五十嵐統括指導主事に説明してもらったが、疑問が若干あったので、鈴木先生に補足をしてもらいながら、今年行う内容をもう少し復習確認できればよいのではないかなと思う。

吉村指導課長のお話の中で、一つは大泉学園桜小・中学校と練馬区の子供の実態をどうしたいのかという4部会共通の問題がある。もう一つはカリキュラムを組むのにアンケートを読んだが、この中にキャリア教育について子供たちの意見が書かれている。例えば小1から中3までの9年間を通じて、将来の進路や職業などについて指導を行うことについて、小学生はあまりよいと思っていないという結果が出ていた。

さらに、「職業とか仕事はそんなに要らないのではないか」、「職業や進路の指導は小学生には早いと思う」といった声が小学生の意見の中に入っていた。また、「小学生1年生から将来の進路や職業などの指導をしなくてもいいと思う」といった意見が入っているが、そこをどう解釈するか。もしかしたら先ほど課長が言われた子供の実態につながる場所でもあるのかと思った。

それから、学習指導案とそのためを使う子供のワークシートの資料で何をつくるのか。キャリア教育部会だけが中間報告書の後ろに6つの事例を入れているが、学習指導案を見たときに、この事例はどう整合性があるのか、それともこれは別立てなのか。先ほどの五十嵐統括指導主事が言われた内容は、指導事例としてどうするのか。指導計画も2単位時間以上の活動となっているが、中間報告の6つの事例を膨らませながらワークシートを作成すれば、あるいはこの6つでは足りないのか。9、10、11、12とつくった方がよいのか。そこはご指示をいただきたい。

それからカリキュラムという言葉が出てくるが、実際には学習指導案をつくっているのだから、そのあたりをどう考えればよいのか。

最後に、教科とか特別活動の場合には、指導すべき内容が学習指導要領に柱立てがされていて、また解説書のところにいろいろ書いてある。昔は評価基準の具体というかたちで柱が出ていたが、そういうものが特別活動で位置付ける場合には必要なのか。あるいはそういうものを取り払ってしまっ、ここに入っている指導項目の内容で自由に組んでしまっているのか。そこも若干心配なところがあって、重視する指導項目で「自己肯定」とか「望ましい職業観」があるが、それを学習指導要領とか解説書、評価基準ときちんと合わせてつくってくださいという指示なのか。ここはけっこう大事なところで、何でもよいのであればつくれるが、そういう縛りの中でやるとなると、スタートから他の部会と同じようにやらないと、あとで、「これが入っていない」とやられると、ちょっとつらい。

事務局

確認しないと何ともいえないが、大泉学園桜小・中学校のためだけではないという視点でいくと、学習指導要領を踏まえてどこの学校でもできるという視点でのまとめ方になると思う。最初にあった小学生のアンケートの回答も、キャリア教育の本来の意味をわからないままイメージで回答している可能性がある。職業とか進路、受験という狭い印象で答えている可能性があるのも、そのあたりは委員の先生方にしっかり分析していただいて、その受け止め方を逆に部会から発信していくのもあるのではないかと個人的には感じた。

委員

私も同じようなことを感じていた。例えば資料 No. 3、4つの部会のカリキュラム一覧があって、上に「各部会の学習指導案をもとに事務局が作成する」と書かれているが、ここに落とし込んでいく。これが見出しのようなものになる。同じようなものが資料4にあって、今度は「各部会の学習指導案をもとに事務局が作成する」とあるが、教科、道徳、総合的な学習時間、特別活動が2つ、学校裁量の項目に落とし込んでいくことになるのか。

事務局

ここは目次、索引みたいな感じで、組み替えて表示することになっている。

委員

去年は自己肯定感、勤労観、特別支援学級という三つの柱に2つずつ事例を組み込んだ。これがまた教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の枠に入れられて、さらに中間報告がどの程度最終報告に反映されてくるのかがよくわからない。

さらに、こういった枠組みでとらえるとなると、去年つくっていたA3判の大きな表とのかかわりから発展させたいが、またこういった配当表みたいなものが出てくると方向性がよくわからないのではないかという気がする。

事務局

これは4部会のそれぞれの成果を一覧にする事務局側の作業なので、キャリアの昨年度の取組を発展させることは当然あると思う。

あとは、教育課程に位置付けていかなければいけないので、こういう一覧の中、教科とか特別活動という枠の中に事例を落とし込んでいく作業も当然必要になってくると思う。

委員

高橋先生から出ている大泉学園桜中学校のプリントを見ると、職場体験、キャリア教育との関連は、大泉学園桜小・中学校は総合的な学習の時間みたいなところでとらえている。キャリア教育の中には道徳の部分もあるといいながら、ここのウエイトが非常に大きいような気がする。一つの項目のところに偏ってしまう可能性が高いのではないかと感じている。

事務局

ある程度やむを得ないかと思う。見た目きれいに全部をちりばめることが大事なのではなくて、部会としてどういう提案をしていくかということを考えた。他の部会のものもここに入ってくるので、このあたりは事務局で調整したいと思う。

委員

吉村教育指導課長のおっしゃる練馬の子供、さらにいえば大泉学園桜小・中学校の子供の実態というところを考えると、例えば我々がこれから進めようとするということについて意識調査なり実態調査をして、それをベースに何らかの方策を考えていく必要があるのかどうか。そこまで具体的なところが求められているのかどうか。これはどの部会も共通だと思うが、逆にそういう意識調査をする時間的なゆとりがはたして大泉学園桜小・中学校にあるのかどうかも含めて、はっきり確かめたい。やるとすればスタートの時点で、早急にやらないといけない。

部長

補足になるが、このアンケートの調査項目は、我々には下りていなかった。キャリア教育の項目が、小学生にとって本当に答えやすい項目なのか。実はこれは大人と保護者だけにわかる項目だったように思う。

数字が一人歩きしてしまっているから、何年生かわからないが、例えば「将来の進路や職業などについて指導を行います」という言葉の意味、「進路」という言葉をどうとらえて回答しているのか。今になって思えば、アンケートの項目の精査を本当は部会も関与してやるべきだったのではないかと感じる。

委員

質問項目自体が、大人の書き方である。だからそのまま読んだのでは子供たちはわからなかったのではないか。その回答についても、家で保護者と考えて書いてくる形式だった。保護者の意向が強く反映されてきているのではないか。そして保護者は、小中一貫とか、あるいはキャリアという考え方がまだ十分に行き渡っていないから、旧態依然たる「進路」とか「進学」を中心にとらえて回答したことが危惧される。

部長

これだけ見たら、小学校低学年はキャリア教育については非常にマイナス的な要素で回答しているとしか読み取れない。中学生になるといいが、この調査は怖いと思った。

事務局

私の意見として出させていただくと、逆にだからこそやらなければいけないという解釈もできるのではないか。

部長

逆にやらなければならないという解釈は、正当なアンケートの項目を発達段階に合わせた子供の質問形式として妥当な質問項目でやった場合にはいえる。これは発達段階に合ったアンケート調査

の項目の語彙ではない。それに引きずられて、結果、キャリア教育に対してマイナスイメージが小学校から出るとちょっと違うのではないか。

小学生から「とてもやりたい」というのが出てくればこんなことは言わないが、マイナス的なものがぼつぼつ出てきてしまっているの、キャリア部会の存在意義がなくなってしまう。

委員

これはかなりのエネルギーを使ってまとめている。これから、質問の言葉ひとつ吟味していくのも相当な時間がかかる。我々はタイムリミットが決まっているから、そこからスタートするとちょっと難しい。だから、これをどう活用していくか。ここから出てくる数字、例えば小学生がキャリア教育についてあまりいい印象をもっていないとすれば、では我々としては何をするかという発想で取り組んでいかなければいけない。

小野先生がおっしゃるように、はたして適切な調査だったのかというのは確かに事実としてあるが、それを吟味してやり直す時間的なゆとりはたぶんない。

部長

実態があるからこそ学習指導案の本来の展開ができるわけであって、そのスタートが一番大事になる。

1年生から4年生では「人とかかわりの中の自分を見つめる」というキーワードがある。でも5年生から9年生は「将来を見つめる」ということでステージを変えている。そういうところを入れながら学習指導案自体を考えると難しいのではないかという気はする。

だからⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期という大きな流れの中で、アンケートの分析はどこかでしてくれるのか。その分析が、まさしく今回の学習指導案やワークシートを必要な子供たちにつくるために生かさないともったいないし、やはりこれをつくった主催者が、「こういう結果があったから各分科会ではそれを踏まえてほしい」といったことがないとおかしい。

アドバイザー

アンケートの意味も、キャリア教育の部分に関していうと、指導資料を改善するための意図で取っているのではないと思う。確かにちょっともったいない取り方だ。指導資料ができて、それを見て回答したという経過ではない。

委員

この中で参考になるデータがあるとしたら、我々が去年つくってきた実践事例をもとに理論の実態に合わせて若干修正をかけて、つくっていくしかない。

部長

そこが落としどころになる。これを見ておもしろかったのは、中学校1年、2年、3年で「そういう授業、とてもいい」といったのが2年生。2年生は実際の職場体験の感想が出た感じがした。体験活動のよさがこれだけリアルに出ている。

アドバイザー

だから具体的に職場体験をやってみてどうかというアンケートならいい。いろいろプランをやってみて、やった子供たちに「やってみてどうか」と聞けば、回答は全然変わってくる。ほとんど「いい」というはず。

私たちが考えているプランは、子供を受け身にさせているプランではない。キャリア教育は体験的なものを多く含んでいるので、子供たちが自らやらないと価値観を獲得できないようなかたちでプランニングしている。だから、「ふだんの授業よりおもしろい」と言うと思う。

委員

この部会をやった際にも、キャリア教育に対して小学校、中学校、特別支援学級から、何がキャリア教育に当たるのかということについてはかなり意見をたたかわせてきたし、その中から自己有用感という言葉とか自立心。そういう中から小学校が現にやっているものをキャリアとのかかわり合いの中でとらえたり、「職場体験とか職業を知ることだけがキャリアではない」という話をしてきたと思う。

キャリアの教育の位置付け、意義付けはどのようなものかということをも新たな視点で周りに知らしめていくことも、この部会としては非常に重要なものなのではないか。そのあたりの考え方がまだまだ弱いので、先ほどした小中一貫の実行委員会のキャリア教育との関連という中では「他教科との関連」という言い方と、5年生からは「職業という観点」というふうにしフトした考え方をしている。

我々がここで話してきたのは、友達とのかかわり合いの中においてどのように過ごしていくか。そうしたものを4年生でとらえていこうということだったので、そこが確実に違っている。従ってキャリア教育をどうとらえていったら自分のキャリアになり得るのかということを示していくのが大きな務めなのではないかという気がしている。

そこを補足すると、大泉学園桜の小学校と中学校では全教員が関係するのが連絡会。それが分科会形式になる。それから各主任、小中一貫校の担当者、それから大泉学園緑小学校も入るものを今回「実行委員会」という名称にした。その中で次の会合はどんなふうにしていくかということでもとめたのが今回のプリントで、小学校、中学校で現にやっているものを合体していく際には、どういう趣旨に基づいて一緒にできるか。あるいはどういうことがネックになって一緒にできないのか。そこを検討している。

例をいうと、いま大きな問題になっているのが、小学校のクラブ活動と中学校の部活動。中学校の部活動は任意参加。全員参加ではない。ところが小学校は全員参加になる。そのあたりを5年生から導入した場合に教育課程上どのようにしていくか。

それから委員会活動、生徒会活動にしても、中学校は全員が委員になっていない。ところが小学校は全員が何かしらの役割を得ている。そういう教育課程上の違いを教育委員会がどのように斟酌していくのかという大きな問題も出てきている。

それから異学年で宿泊行事その他に行く場合には、連合行事として学年が決められていることがあるので、そういうときには一緒にこういう趣旨でやったらいいだろう。といっても区の縛りがある。そのあたりのところで、これからどのように変わっていくのか。

アドバイザー

去年つくった中に事例をいくつか取り上げているが、他の部会にもあれをやってもらいたいという話は聞いている。キャリアだけはやったけれども、他はやっていないから、ああいうふうにやってほしい。だから私たちが先行したのは、他の部会の人たちがあれを見てくれるので、サンプルがあつてやりやすいということなのではないかと思っているが、これを全部見てみると、この中のプランは全部で 23 個ぐらいある。それを圧縮して 1 枚にまとめて、6 事例出した。だから残りの 17 個も全部出したい。五十嵐統括指導主事の話だと、出すか出さないかはこちらで決めていいと言っていた。前に出した 6 つの事例も含めて 23 個全部出して 1 ページだと必ずしも十分ではない。70 ページぐらい使ってほしいということだから、23 個だと、一つの事例が 3 ページずつぐらいか。

そして、そのうちの 1 ページぐらいはワークシートとか子供用の資料、子供がそれを使ってすぐ学習できるようなものがほしいと五十嵐統括指導主事はいっている。私は、ワークシートは無駄だから止めろとまでは強く言わなかったが、先ほど回っていた本でワークシートがどのぐらい載っているのかと思って見たが、町田市が作った資料にはワークシートがものすごくたくさん載っている。

23 事例を全部消化するのか、あるいはその中からもう一回練り直してやるのかはこれからの相談になるが、私のイメージとしては、この 23 事例のうちまだやっていないものをやるか、今までやったものも含めて 23 事例全部出すかどちらかにまず決めて、1 ページにまとめたものはどちらかという教師の学習指導案というよりも事例報告みたいな感じになっている。それを学習指導案にしてもらいたいというので、やはり 23 事例やり直しになると思う。学習指導案と子供向けの資料、ワークシートにしてほしいということなので、仮に学習指導案を 1 枚付けたら、あとの 2 ページないし 3 ページ分は子供向けの資料とかワークシートみたいなものを入れてほしい 3 ページ。場合によっては 2 ページのところもあるかもしれないが、それで 70 ページの範囲でキャリア部会としては組み立てが終わる。話を聞いてイメージ的にはそうだが、それは事例集だからカリキュラムというにはちょっとおこがましい。

委員

それだけの時間もないので、やはり限られた時間の中で何ができると考えると。

アドバイザー

「カリキュラムにもっていくための基本的な考えはここにつくりました」と開き直すしかない。我々は今まで事例集の実践編をつくったけれども、それにプラスして子供向けの資料やワークシートも加えてもう一回整理しようという流れになるのではないだろうか。

部長

おそらく子供向けの資料、デジタルデータを付ける意図は、小中一貫校の先生たちがそれを見てすぐに活用できるところが大きなねらいだと思う。だから見る人に「これはカリキュラムではない」と言われたら仕方がないが、要するに活用ができればいいという視点でまとめていけばいいのではないか。

アドバイザー

次回の会議はその確認なので、五十嵐統括指導主事とよく話をしてほしい。どういうイメージ

かをつかむために実践事例の本を買ったのではないか。カリキュラムとは言えない感じがする。

委員

教員はいつも忙しい。字がたくさんあると見ない。だから情報をいかに捨てていって見やすいものにするか。逆に活用にポイントを当てるとしたら。どんどん情報を捨てていって、忙しい中でパッと見てできる。そういうものを求めているのか。そうではなくて、系統的にこうしてこうなって、だからこうするんだというものを求めているのか。他の部会との関連もあるから、そのあたりの方向性を早めに決められるといい。

アドバイザー

だから事例集でいいのかだけ確認して、事例集でいいといってくれば非常に楽である。

部長

二十何事例をつくってしまえばいいので、それで終わってしまう。

アドバイザー

そうしたら、次回この確認をして割振りをして次は実践された方にそれぞれ1事例ずつサンプル原稿をつくってもらって調整すればいい。7月の会議のときに原稿のフォーマットができてしまったら、夏休みに「お願いします」となればいい。

事務局

次回までに確認をしたうえで、皆さんの作業の具体的な内容を確認して8月の個人の作業につなげていくという流れにもっていきたいと思う。

アドバイザー

ワークシートとか資料は簡単に入れられるか。

委員

実践が伴っていればできるだろうが、参考資料もお借りすることになると思う。

部長

これが学習指導案で、こちらは去年、芝田指導主事がつくった項目。そのときの項目が「本事例とキャリア教育との関連」というキーワードで、次の「概要」はいいと思う。その下に、これは入れたほうがいいというので「事例における児童の姿」とか「生徒の姿」。それがここには入っていない。単なる学習指導案で「活動のねらい」があって、すぐ指導計画に入ってしまった、「キャリア教育での位置付け」が事例に入らない。でも、この6つの事例を一生懸命つくったときに書いた文書だから、これを削除して実践事例の6つをすかさずかにして学習指導案にするのはちょっともったいないと思う。これがサンプルとして先行事例で出ているのであれば、ここに書いてある文章のここを何とか生かせるようなかたちで学習指導案をもう一回見直してもらえないか。

事務局

大丈夫だと思う。のちほど報告させていただく。一つ質問したいのだが、昨年皆さんが出された事例のうち、今年度の7月まで、前半の部分で実際にやられるものはあるだろうか。

部長

うちはここにある二十何事例を6月下旬にやるので見に来て写真を撮ってもらってかまわない。

アドバイザー

どこかでやるとはっきりしていれば、時間が空いていけば見に行く。

部長

上石神井小学校と上石神井中学校でリトルティーチャー。6月25日金曜日午後。あとはどなたかにビデオを回しておいてもらう。

部長

あとは写真ぐらいか。

事務局

他にも7月ぐらいまでのあいだにやるという話があればぜひ見に行きたいし、ここで取り組んだ事前事後のまとめとか、準備したものなどもかなり興味深いと思う。

アドバイザー

職場体験は10月ぐらいか。

委員

8月の25日からの1週間。

委員

前は7月の頭ぐらいにやる学校も多かったが、夏休みが短くなってしまったので、その関係から8月の切れ目のところに入れる学校が増えた。部活動体験は、大泉学園桜中学校では5月から始める。

アドバイザー

今年、それをやる学年に入っているのかどうかはわからないが、事務局は行けないのか。

事務局

時間を合わせて、行ければ行きたいと思う。個人的にも勉強させていただく。最後、まとめをしていただければと思う。

委員

今年1年、最後は10月ということで時間的にたいへん厳しい状況が出てくるかもしれないが、昨年のように皆さまのお力とお知恵を拝借して、課長の言葉を借りれば、練馬区の子供たちのためにいいものをつくっていきたいと思うので、よろしく願いいたします。